



植えたぞー！ 収穫したぞー！ 食べたぞー！

将来は農業経営者（ハルサー）！

長田子ども会が体験農業

市街化が進む本市では、農業を身近に感じる機会が乏しい。今回、体験農業（農作物の植え付け・収穫味わう体験）をおして、子ども達に農業への関心を持ってもらおうと、ホタル農園（長田在）の協力を得て、長田子ども会（仲本千賀子会長）20名とその保護者の皆さんによる体験農業が行われました。

この企画は、「中部地区『農でグッジョブ』推進会議担い手育成事業」（通称『子ども達の体験農業』）の一環として実施されたもので、昨年の11月10日、同会の子ども達がジャガイモと大根、ニンジン植え付け、その後、芽が生え揃った頃に芽かきと追肥を行い、約2カ月半にわたって成長を見守りました。



▶慣れない手つき ▶芽かきに集中して植え付ける子ども達

ジャガイモが土の中から顔を出し、いよいよ収穫の時期。2月2日には、子ども会による収穫祭が行われ、翌3日に開催された長田区公民館まつりでは、収穫した野菜の即売会が開かれました。子ども達が育てた野菜は区民の皆さんにも大好評。約80kgのジャガイモと150本の大根があつという間に売り切れとなりました。



▶大根を片手に ▶育てた野菜を誇らし「採ったど〜」げに売る子ども達

2月16日、残しておいたジャガイモと人参を使い、子ども達がお母さんやお父さんと一緒にカレーライス作りに挑戦。1時間程でできあがったカレーは、大抵は自分で植えたものとは大違い。自分たちで植えた野菜をほおばる顔はみんな嬉しそう。お婆ちゃん達が漬物にしておいた大根も、カレーラ



▶野菜の皮むきに ▶手作りのカレーチャレンジ ライス最高〜！

イスのお供に大活躍しました。このように、野菜を自分で育てることにより、農家さんの大変さを知り、何より自分で育てた野菜を食べることで、嫌いだつた野菜が好きになることは『食育』にも繋がります。この体験農業を通して、子ども達に農業への興味と関心が芽生え、将来は農業の担い手として育ててほしいものです。

「人参はどこでできる？」
と尋ねると多くの子がスーパーの名前をあげるそつです。
「畑に種をまいて、肥料や水をあげ、数ヶ月かけて育てた野菜を収穫し、その野菜を調理して食べる。」共においしさや喜びを感じ、食への関心や農家さんへの思いも強くなることでしょう。
ご家庭でも、プランター栽培や料理のお手伝いなどを通して、楽しい体験「食育」を増やしましょう。